

岩 柳

「八朔の船流し」若者新装

柳井中美術部 依頼受け船19艇修理



修理した船を木阪会長（左から2人目）に渡す生徒たち

18日行事 住民「大切に使う」

柳井市の伝統行事「八朔はつまつの船流し」に使う船を柳井中美術部の生徒が修理した。行事が復活した2000年から使う船の傷みが目立ち、主催する住民グループ「白壁の町並みを守る会」から手直しの相談を受けた。船は8月18日、市内の柳井川である船流しに使われる。

(山本祐司)

美術部の1、2年生28人が2週間をかけ、長さ約50センチの「頼母船」19艇を修繕した。骨組みを直す班、汚れを落とす班、和紙の人形を再現する班に分かれて作業。設計図や説明書がないため、それぞれの船の傷んでいない部分をよく観察して、原形に近くなるよう工夫した。

行事を復活させた守る会が作った船は、20年以上使われるうちに骨組みが折れ、ほこりやカビなどが付いた。こぎ手などの人形も一部が欠けた。会員の高齢化に伴い、まとめて船を直す機会がこれまでなく、守る会が6月下旬に美術部へ修理を依頼した。

2年益本直和さん(13)は「修理は難しかったが楽しかった。直した船が使われると、うれしい」と話していた。船を受け取った守る会の木阪泰之会長は「生徒の皆さんには誇りに思ってもらいたい。われわれも大切に使う」と喜んだ。

川で生き物を捕る参加者



川で捕った生き物を観察する内田学芸員（左端）と参加者たち



とびきりの笑顔 写した一枚募集

下松市と市教委は「第21回笑顔の写真コンテスト」(中国新聞防長本社など後

援)の作品を毎月1日から9月1日付けける。市内の在住者通学している象。1年以内の常生活の中で写した写真を1人が

表彰

徒ら表彰 竜王中7人

繁吉教育長(手前左)から受け取る中津井さん



一般社団法人全国古民家再生協会の 山口第一支部長

錦ホープの会代表